

第1回 大蔵・舞子海岸の空洞対策検討委員会 議事概要

開催日時：令和7年3月26日（水）10：30～

場所：シーサイドホテル舞子ビラ神戸 3階 萩

～ 議事概要 ～

（1）議事内容

- 委員長挨拶
- 委員会の進め方
 - ・ 現在おこなっている立ち入り制限の解除に向けた検討
 - ・ 対策工法等に係る検討について技術的な視点からの助言をいただき、対応方針をとりまとめる
- 過去に発生した空洞等の原因や対策及び令和6年度の空洞調査結果
 - ・ 過去（平成22年度、令和元年）に実施した調査結果と対策について
 - ・ 令和6年度に実施した調査結果（レーダー探査、潜水調査、開削調査）について
- 空洞発生の原因（メカニズム）究明に向けた論点
 - ・ 今後、空洞発生メカニズムを検討する上での留意点等

（2）主な議事

■委員長挨拶

- 今回の現場（大蔵・舞子海岸）は、利用されるための施設であるので、利用されるためにはどうしたらよいかという観点から議論ができればよいと思われる。

■委員からの助言等

- 防護面だけを考えると防砂板等は頻繁に点検する必要はないかと思われるが、利用面を考えると、損傷する前に更新するといった予防的なメンテナンスが必要かと思われる。
- 大蔵海岸で対策したあとに下がった理由や比較的小さな空洞（沈下）を許容すべきかどうかということを検討する必要があると思われる。
- 舞子海岸で最も吸出しが大きかった箇所は目地幅が大きく裏込石が抜けている状況であった。裏込石が抜けることはこれまで明確に想定されていなかったもので今後参考にしたい。
- 当該箇所は、裏込石が抜けるのをどのように対策するのがポイントと思われる。
- その他の空洞も比較的小さい箇所は、目地開きの拡大に注意しつつ、目地の対策・モニタリング・定期的なメンテナンス等について検討していく必要があると思われる。
- 裏込め部については危険性があると思うが、ケーソン部については開放しても問題ないと思われる。ただし、そこに至るルートの確保が必要である。
- 比較的小さな空洞発生原因の究明（メカニズム）や空洞進行の監視（モニタリング）のため、監視孔の設置や監視カメラの設置等による調査を行うことが考えられる。
- 対策効果を試すことができれば良いと考えられるが、簡単にはできないと思われる。
- 対策工法はいくつか考えられるが、耐久性のことを踏まえると、やり直せる（更新できる）方法が良いと思われ、機能上健全な間であっても交換するような水準で管理していくことを検討する必要があると思われる。
- 利用面を考えると、ケーソン部や空洞の規模が小さい箇所等については、監視体制を整えたうえでできるだけ早く立ち入り制限を解除していくことを検討する必要もあると思われる。

以上